

読書文化の醸成に向けて
～生涯にわたり読書に親しむために～

提言

令和4年8月

和歌山県社会教育委員会議

1 提言にあたって

読書文化の醸成に向けて

～生涯にわたり読書に親しむために～

読書は、わたしたちの人生に豊かな時間と心の栄養を与えてくれます。

和歌山県社会教育委員会では、県教育委員会の諮問を受け、令和2年9月から、県内での読書活動を推進し、県民の読書文化をより一層醸成するための方策について、議論を重ねてきました。

まず、「県民の読書文化の醸成」について、その意義を押さえました。その中で、読書文化の醸成そのものを今期の議論のゴールとするのではなく、県民に読書文化が根付くことによって、言葉の力、あるいは、コミュニケーション力の高い県民性、また、県民それぞれに豊かな人生を実現することにゴールがあることを確認しました。

そして、「県民の読書文化の醸成」には、家庭・学校・地域におけるそれぞれの取組が大切であり、家庭教育・学校教育・社会教育が機能的な連携を図りながら、具体的な読書活動を展開していくことが必要であるため、その内容について、検討を進めていきました。

さらに、こうした文化の醸成は、一朝一夕に調うものではないことから、今、手許で実現できる読書文化を考えるとともに、次代の和歌山を担う子どもたちに確かな読書文化を醸成するために、わたしたち大人にできることを論議してきました。

本提言書には、「子どもの発達段階を考えた読書活動の在り方」「大人が今すぐ取り組める読書活動の在り方」について、家庭教育・学校教育・社会教育の3つの観点から議論を進めてきた提言内容、さらには、読書文化啓発のために取り組んできた内容をまとめています。

大人も子どもも年齢に関係なく、和歌山県民が読書に親しみ、その喜びや楽しさを共有できる、温もりのある読書文化が醸成され、豊かな人生につながることを期待しています。

2 子どもたちの成長や年代に合わせた読書活動

(1) 絵本を介した身近な大人とのふれあいの時期（乳児期）

【キーワード】 本との出会い ～絵本で遊ぶ～

赤ちゃんの時期の子どもたちには、お父さんやお母さんなど、身近な大人とのふれあいが欠かせません。絵本は子どもと向き合う時間をつくるコミュニケーションツールになります。身近な大人と一緒に、絵本で遊び、楽しんだ時間は、子どもにとって大切な経験になります。

児童文学作家の椋鳩十氏は、「母が声を出して読んでやるということは、きわめて大切なことである。なぜなら、声の中には必ず心があり、心を込めて読んでやれば優しい母の声が、子どもの中に入り込んでいく」と、その著書『お母さんの声は銀の鈴』で語られています。絵本で一緒に遊んでいるときかけられる身近な大人の声には、絵本に著された言葉以上に、子どもの健やかな成長に大きな力をもたらしてくれるようです。

こうした場面を創るためには、親子が本と出会う機会を地域でもつくっていく必要があります。「家に本がある」という環境をつくるブックスタートの運動を進めることや、若いお父さん、お母さん方が、どんな本を選べばいいのか、どんな遊び方をすればいいのかを知る機会を充実させることが求められます。

<家庭で赤ちゃんに絵本との出会いをつくること>

- 赤ちゃんとは絵本との出会いをつくるのは、まず、お父さんお母さんである。
- ブックスタートは、親子のふれあいを創る。絵本をきっかけに親子がふれあいの時間をもつことで、絵本に親しみ、絵本を楽しんで読む子どもに育てていく。「乳幼児に絵本を」というときには、与えきりではなく、親子でふれあう時間の大切さを伝えたい。
- 絵本はおもちゃのひとつとして見てもらえればよい。絵本は子どもと向き合う時間をつくるコミュニケーションツールのひとつ。何度でも聞きたがるのもOK、自分でめくろうとするのもOKである。
- 赤ちゃん期は一緒に絵本で遊ぶ。「読んであげる」のではなく、絵本の世界へ一緒に出かけることが大事である。

<地域で、親子が本と出会う機会をつくること>

- 家に本がある、という環境が大事で、ブックスタートの運動を充実させる必要がある。
- 本に触れてこなかった親に、一緒に楽しめる本を紹介する必要がある。
- お父さんお母さんに、身近に本がある環境を意識させたい。図書館等の「おすすめの本の紹介」コーナーを知らせることも大切である。

(2) 大人の読み聞かせを集団で楽しむ時期（幼児期～小学校低学年）

【キーワード】 人との出会い ～絵本を楽しむ～

幼児期の子どもたちは、家族以外のさまざまな大人と出会い、世界を広げていきます。保育所・幼稚園・こども園・学校の先生や地域の人に絵本やお話を読み語ってもらうことで、子どもたちは楽しく情操やことばの力を育てていきます。集団生活を始める時期の子どもたちと本とをつなぐ取組を緻密に行うことで、進んで本に手を伸ばす習慣が身についていくと考えられます。

また、家庭で親子と一緒に読書を楽しんだり、読書をきっかけに学校と地域がつながったりすることで、みんなで子どもの読書環境をつくっていくことができます。

<家庭で読書を楽しむこと>

- 昔読み聞かせた本について、大きくなってからも話ができる。
- 子どもたちが本に親しんだり、好きになったりすることは、大人になったときに役立つ。
- 本を読むことが生活の中で特別なことであってはならない。
- 子どもの内に読書の習慣をつけることは、健やかな成長になくてはならないことである。
- 家庭の中に読書文化がなければ、子どももなかなか熱が上がってこない。
- 子どもと一緒に寝転んで本を読むような、リラックスした楽しみ方も効果的である。
- 本に親しむための何らかの働きかけがなければ、子どもだけでどんどん本を読む、というのは難しい。家庭に本がたくさんあって、本に親しむ環境は非常に大切である。
- 親が本を与える、というよりも、読み聞かせなどで親子が一体で感じあうことを啓蒙したい。
- 子どもはそれぞれ個性を発揮して育つ。本を読むことが大切だからと言って強制しても、本好きには成長しない。読みたいときに読みたい本を与えられるように見守ることも大切である。

<保育所・幼稚園・こども園・学校と地域とが本でつながること>

- 就学前の子どもが、社会教育・生涯学習の場で読み聞かせに触れたり、保育園に読み聞かせグループが来てくれたり、といった環境や活動がどこの市町村にも必要である。
- 学校司書、教職員、「コミュニティ・スクール」の中のボランティア、その三者をうまく絡み合わせながら、学校図書館を活性化させるための意思疎通と協働が非常に重要になってくる。
- 「共育コミュニティ」や「コミュニティ・スクール」が機能する中で、学校と地域の連携がかなり進み、地域の読み聞かせやお話ボランティアが学校と協働しやすくなってきている。
- 地域の「読み聞かせ隊養成講座」を行い、100人程度が学校・保育所・図書館で読み聞かせを行っている。
- 学校教育の中で、先生方の読書活動に関する意識や活性化の取組の工夫をさらにお願したい。

(3) 自らの意思で本に関わる時期（小学校高学年～高校生）

【キーワード】 自分との出会い ～本と語る～

読み聞かせを楽しんだ子どもたちが、いよいよ自ら本に手を伸ばすことができるように、さまざまな場面で読書に触れ、楽しめる環境づくりが必要です。ビブリオバトルやよみかたりボランティア活動など、読書をとおして仲間と交流する場があれば、読書の楽しみを知る機会を増やすことができます。また、インターネットや電子書籍を「読書へ誘うツール」として活用することも考えられます。

地域でも、居心地の良い図書館の整備や、みんなが使える本棚の設置など、本に触れるきっかけづくりがどんどん進んでいます。家族や友人と一緒に本のある場所へ出かけたり、すき間時間に本を読む大人の姿を見せたりすることが、進んで本に手を伸ばす子どもを育てることにつながります。

<さまざまな場面で多様な読書を楽しむこと>

- 話したくなるような本があり、話せる場所があり、寝転がったり閉じこもったりできる場所があると、本が楽しくなり、好きになるのではないかな。
- 電子書籍に絞り、リーダーを配布するくらいのことを考えてもいいと思う。
- インターネットを活用した読書文化を考えていき、「読書へ誘うツール」として扱いたい。
- 高校のときに読書が楽しいと感じていれば、親になった時の読書に直結するのではないかな。

<読書をとおして仲間と交流すること>

- 本と出会うチャンスや環境があれば楽しみであり、交流が始まるし、コミュニティが生まれる。
- 高校生が小学生・中学生とふれあい、保育園・幼稚園の子どもとふれあう中で実感してもらおうといった、小さな積み重ねが大切である。
- 高校生が外へ働きかけることに良さがある。一方で、高校生自身の読書活動について、働きかけが難しいと感じている。学校教育の様々な場面で、読書への必然性を創ってやって欲しい。

<本のある場所へ出かけること>

- 中学・高校で本を積極的に読まなくなる原因は、家に本がないなど、本が身近にないことも影響しているのではないかな。
- 地域の本屋さんも重要な読書の担い手である。図書館と本屋さんをふくめた、本を扱う人たちの広がりができるといい。

3 大人自身も読書を楽しむために

【キーワード】 読書の楽しみ、社会教育委員会議からの提案、大人の読書

県民の読書文化を根付かせるには、大人自身も読書を楽しむことが肝要です。自分自身で楽しむ読書はもちろん、本について誰かと話すことや、読書に関するイベントに参加するなど、さまざまな楽しみ方があります。すぐに手を伸ばせるところに本を置き、親子で本とふれあう時間をつくったり、本のある場所に出かけたりするなど、本のある生活を楽しむことを提案します。

社会教育委員会議からの提案 ～大人の読書 10 項目～

- (1) 大人も絵本を楽しんでみませんか。
- (2) すぐに手を伸ばせるところに本を置いてみませんか。
- (3) 生活のすき間時間に本を楽しみませんか。
- (4) 大人が本を読む姿を子どもたちに見せませんか。
- (5) 親子で本とふれあう時間をつくりませんか。
- (6) 家族で読んだ本について話す時間を楽しみませんか。
- (7) 学校や地域の図書館、本屋さんに立ち寄ってみませんか。
- (8) 読み聞かせや朗読をしてみませんか。
- (9) 読書に関するイベントに参加してみませんか。
- (10) 寝転んで読む、電子書籍で読む、読んだことを仲間と語り合うなど、いろいろな読書を楽しんでみませんか。

- 大人が読書を楽しむ機会をもっと広げていくためのアプローチが何かあるのではないか。
- 駅やコミュニティセンターなど、本が身近にある環境をつくり、本に手を伸ばす対策が必要かもしれない。
- 読書の面白さや、本を読むプロセスを良いと言い続けられる大人がいることが大切である。
- ある日突然本を読みたくなることがある。その時に本を手にする方法を知っているかどうかが大切だと思う。眠る前5分でも10分でも、読書をすることでリラックス効果もあると思う。
- 日頃は本を開く時間をつくるのが難しい。しかし、寝る前にはちょっとしたすき間時間ができる。その時枕元に本がある状況をつくれたらいい。
- 電子書籍など、読書への向かい方も様々な広がりを見せている。自分に合った読書の楽しみ方を進めていきたい。

4 読書活動を推進するための取組

(1) 読書推進フォーラム

読書推進フォーラム「見て、聴いて、読んで、本の世界に親しもう～人生を豊かにする読書との出会い～」では、子どもたちに読書文化を根付かせるために、大人ができることを考える機会にしたいと考えました。

アナウンサーの山根基世氏は講演の中で、「自分の気持ちを相手にきちんと伝え、相手の気持ちを受け取っていいコミュニケーションができる、これが生きていくうえで必要な『ことばの力』であり、その多くは読書によって培われる」と、読書の意義を教えてくださいました。

また、氏の講演を受けて、様々な立場で読書文化を捉え、取り組んでいる方々によるシンポジウムを行い、和歌山に読書文化を根付かせるための考えや思いを交流しました。

参加者からは、「言葉の力は生きる力の重要な要素であり、その育成を図るために読書の果たす役割は大きく、読書文化を醸成するために、家庭・学校・地域が協働して取り組むことが大切だと思いました」、「本を、大人も子どもと一緒に楽しめる環境づくりをしたい」など、大人ができることについて考えた意見をたくさんいただきました。

大人が、読書文化の醸成に向けてそれぞれの立場から工夫を重ねることによって、子どもたちの言葉の力が育ち、豊かな人生につながります。そのことを啓発する良い機会となりました。

(2) 家族みんなで読書に親しむことを呼びかける「キャッチフレーズ」

論議の中で、委員の考えをキャッチフレーズに表してみました。また、この取組を県民の皆さんにも広げてみようという提案がされました。

県民の読書に関する意識を高めるひとつの手立てとして、県民の皆さんにキャッチフレーズを募集しました。令和4年1月4日から2月7日（月）までの期間で、1,424点の応募がありました。社会教育委員も審査に参加し、読書の良さを感じ、大人も子どもも本に向かいたいくなるようなメッセージが伝わる作品を入賞作品として選びました。

キャッチフレーズ入賞作品

【乳幼児期部門】

- 最優秀賞 絵本大好き！ お膝で 隣で お布団で♡ (林 まゆみ)
- 優秀賞 好きな本 選んで楽しく 読み聞かせ (中川 ユウ一) ※「ユウ」は「示」に「右」
- 佳作 「おやすみ」のかわりに「むか～しむかし」を。(松下 哲郎)
- 佳作 特等席 本とお膝の間です (屋 杏奈)
- 佳作 大好き 声の温もり 絵本の温もり (高岡 亜沙子)
- 佳作 よみきかせ ママとわたしの たからもの (西谷 和由)

【学童期部門】

- 最優秀賞 ぼくのむね ページとはずむ家読時間（一ノ瀬 拓大）
優秀賞 ねえ、ねえ！ 一緒に本の世界にとびこも！（小田 さくら）
佳作 ぼくは読書で世界を知る！（尾鼻 遼太郎）
佳作 ぼくのひざ 弟すわり 読みきかせ（小林 悠悟）
佳作 本は心のたからもの。（畑 文萌）

【青年期部門】

- 最優秀賞 画面に触れるその指を、ページをめくるこの指に。（真珠 杏莉）
優秀賞 行間を読めたら、大人に近づいた。（水谷 真弓）
佳作 日常に 彩りそえる 一冊を（吉田 心温）
佳作 13歳、本を読まずに後悔しました。（田淵 悠乃）
佳作 「読書が好き」ってカッコイイ！？本の魅力をもっと味わおう！（楠石 正季）
佳作 推しの本を見つけよう！！（石和 柚乃）

【成人部門】

- 最優秀賞 推し本活、はじめませんか？（木村 明子）
優秀賞 本で時間が溶けていく（榎本 菜那）
佳作 トレンドは スマホと読書の二刀流（中川 ユウ一）※「ユウ」は「示」に「右」
佳作 今さらですが「図書館は無料」これってすごくないですか！？（榎本 晃之）
佳作 生涯の 親友になる 愛読書（中川 ユウ一）※「ユウ」は「示」に「右」

（3）県民への啓発活動

社会教育委員会議での協議内容を県民に公開し、皆さんで取組を進めていきたいと考えます。そこで、県民の皆さんへの提案として、議論の内容をリーフレットにまとめます。このリーフレットを受け取った県民の皆さんが、それぞれの立場で取り組める読書を考える機会となれば幸いです。

子どもから大人まで年齢に関係なく、生涯にわたって読書の喜びや楽しさを味わうことができる、県民の読書文化の醸成が実現できることを願っています。

和歌山県社会教育委員名簿

50音順

(任期：令和2年9月1日～令和4年8月31日)

	氏 名	役 職 名
	1 岡田 秀洋	那智勝浦町教育委員会 教育長
	2 尾上 恵治	高野町社会教育委員
	3 笠野 衣美	フリーアナウンサー
	4 川久保 尚志	県立海南高等学校長
○	5 熊代 卓夫	元 日高川町立中津中学校長
	6 佐藤 昌吾	一般社団法人はしっ子えがおサポート 代表
	7 杉本 和子	有田川町地域交流センターALEC センター長
	8 辻 敏弘	和歌山県社会教育委員連絡協議会 会長
	9 道本 美月	和歌山市立有功小学校長
	10 西川 一弘	国立大学法人和歌山大学紀伊半島価値共創基幹「Kii-Plus」 准教授
	11 のし さやか	絵本作家
◎	12 藤田 直子	元 国立大学法人和歌山大学システム工学部 特任准教授

◎：議長 ○：副議長

